



21 Unique Companies
in Sagamihara
and Tama

FILE 04

【株式会社 アトリエヨシノ】

ひと針、ひと針、 「美と躍動感」を生み出す 女性による女性のための会社

舞台を華やかに彩るバレエ衣裳で感動を与え続ける

取材・文=古賀千根

D A T A

会社名：株式会社 アトリエヨシノ
代表者：吉野 勝恵
所在地：神奈川県相模原市緑区与瀬 377-3
TEL：042-682-7110
URL：http://www.atelier-yoshino.com

山と湖の景色が美しい相模湖畔にある会社、アトリエヨシノの吉野勝恵社長。エネルギーにワクワクを生み出す女性経営者。



創業ストーリー

神奈川県相模原市の北西部にある相模湖畔にひとときわ目立つベージュ色の建物。壁面の赤い文字、「Atelier YOSHINO」

が洗練されたイメージを醸し出しています。1998年に吉野勝恵社長により設立されたバレエ衣裳の企画・制作・レンタルを主な業務とする企業、『株式会社アトリエヨシノ』。衣裳は、全国のバレエ教室やバレエ団などへレンタルしています。

「自然の中に住みたかったです」子育てをしていた吉野社長は20数年前に相模湖近辺に東京から越してきました。しかし、多くの女性が経験するように、子育てが一段落したときに「このままでいいのか、今後の自分自身の人生について考えました。もともと百貨店でデザイナーをしていたので、デザイン、縫製、ファッションショーの企画、販売促進などに携わった経験があり、ものづくりは大好きでした。あるとき、バレエをしていた友人に「衣裳がなくて困っている……」と言われ、友人と2人でバレエの衣裳をつくってレンタルするビジネスを立ち上げました。

2年ほどを経て、友人はオーダーメイド衣裳を提供するビジネス、吉野社長はレンタル専門となり、お互いのやり方で再スタートし、こうしてアトリエヨシノは誕生しました。

オーラのある衣裳

「アトリエヨシノの衣裳はオーラがある」とバレエ教室の人々は言います。舞台上で並んでいても、「ヨシノオーラ」を放っていて、他の衣裳と異なるのがすぐにわかるそうです。

それは、ディテールにこだわり、制作の全工程と管理も含め全社一丸となつて取り組んでいるからです。制作段階では、社長の厳しいデザインチェックが最低2回は入り、再検討を求められます。アパレル出身の社長は「美」を見極める審美眼の持ち主がゆえ、確かな技術と芸術性の高いデザインをいつも追及しています。アトリエヨシノの衣裳が黄色、オレンジ、ピンク、アップルグリーン、ブルーなど目に鮮やかな色を使いつつもまとまった色彩パラン

スを保っているのは、配置や使う色の分量が緻密に計算されているからです。また、女性らしく美しく見えるように胸のラインはきれいにカットされ、ウエストラインはしなやかにシエイプされています。立っているバレリーナたちの足がきれいに見えるように、スカート丈は、床からの高さまでも考慮され、踊っているときの衣裳のシルエットが美しく見えるように、視覚のバランスまでも考えられています。舞台は、照明、音響、バレリーナたちの動きも



個性豊かで観る人に感動を与える約7万点の衣裳たち。倉庫とは思えないほど華やかで圧巻。

含めたトータルで表現されます。衣裳はその一構成要素であり、他の要素を加味してデザインすることが必要です。また一方で、舞台上で激しく踊るバレリーナたちが動きやすく、多少のことでは破れない耐久性も重要になってきます。加えて、クリーニング時にはデリケートな素材や繊細な飾りがついた衣裳では扱いにくくなってしまうので、クリーニングの容易性も求められます。

バレエ教室から注文を受け、出荷して、使い終わって送り返されてきた衣裳たちをメンテナンスし、クリーニングするとき、社長はスタッフに「自分の子どもに着せるつもりで扱って下さい」と言います。

こうした意識をスタッフ一人ひとりが持つことで、「アトリエヨシノの愛する衣裳たち」として大切に取り扱いわれます。このような細部へのこだわりにより、知性・品位・清潔感が漂う「ヨシノオーラ」のあるバレエ衣裳になっていくのです。

デザイン力の源泉

現在、アトリエヨシノの総在庫数は約7万点。「白鳥の湖」「くるみ

森のオフィス 湖のオフィス

嵐山、鉢岡山、孫山に囲まれた相模湖。湖面には太陽の光が降り注ぎ、キラキラと反射しています。湖には遊覧船やスワンボートで湖畔めぐりをを楽しむ人がいます。アトリエヨシノの本社は相模湖畔にあり、窓から見える景色は、晴れ渡る空のクリアな水色、山々の緑、そして湖の深い青のコントラストが美しく、オフィスとは思えない贅沢な気分になってくれます。湖畔のオフィスには本社機能とレンタルのバレエスタジオ、約7万点の在庫をストックする倉庫が5フロアに分かれて設置されています。舞台ごと、役ごとに分類され、吊されたカラフルな数々の衣裳が並び様子は圧巻です。

この相模湖畔のオフィスを「湖のオフィス」とするならば、もう一つのオフィスは「森のオフィス」。本当にオフィスがあるのだろうかというほど山道を進んでいくと、木々の間から現れたのは赤いラインが鮮やかなペンション風の建物。そこがアトリエヨシノの「森のオフィス」でした。中に入ると、デザイナー



相模湖畔に建つ湖のオフィス。本社機能、バレエスタジオ、約7万点の衣裳のための倉庫がある。窓から見える相模湖の景色はオフィスとは思えないほど贅沢だ。



スタッフの約97%が女性、女性による女性のための職場。あらゆる部署で女性が活躍している。

吉野社長による厳しいチェック。芸術性の高いデザイン、耐久性、クリーニングの容易性も含めた衣裳制作を追求している。

割り人形「眠れる森の美女」「ピーターパン」「不思議の国のアリス」などの幕物に関しては、1人のデザイナーが一演目すべての衣裳をデザインしています。1人のデザイナーでやることで、統一感のあるトータルコーディネートが実現されます。では、これだけのデザインを生み出すデザイナーたちのデザインの源泉は何なのでしょう？アトリエヨシノのデザイナーたちの勤務時間はフリー。それは、吉野社長の「デザインを生み出すには自分を磨かなければいけない」という考えからです。自由に舞台、映画、絵画を見に行ったり、図書館に行ったりして刺激を受けてほしいと言います。何がきっかけでアイデアが浮かぶか



色の配分、ラインの美しさなど、バランスを考えながらひと針、ひと針、衣裳を縫い上げていく。

わからないので四六時中見つける姿勢が大切だと考えています。「社長はどのようにしてデザインのヒントを見つけているのですか？」という質問に、「あるとき、ほうきを持って掃除しているおじさんを見た。そのほうきの穂先部分がカラフルなかわいかったの。その色の組み合わせにヒントを得て、ドレスにカラフルな房をつけたら、かわいいデザインになったのよ」と、社長自身が常に周囲を見渡し、ありとあらゆるところから情報収集をして、偶然とインスピレーションによって生み出してきました。この経験から、社員にも常にアンテナを張り、デザインの源泉を探る姿勢を身につけてほしいと思っています。

室、パタンナー室など数部屋のアトリエがあり、女性を中心としたスタッフが制作に励んでいます。柔らかな日差しが差し込む窓のすぐ外には、赤く色づいた木々の茂みがあり、のどかな風景が広がっています。自然に囲まれ、時が止まったような静寂の中にある隠れ家的なアトリエ。その中で、鮮やかな色合いとしなやかな曲線を持つ、美と躍動感を兼ね備えた衣裳たちが生み出されていくのだと実感しました。

女性が活躍できる職場・女性が働きやすい職場

バレエ衣裳を扱うという性質上、108名のスタッフの約97%が女性を占める、女性による女性のための職場です。制作段階では、デザイナーたちに素材選択からデザインまで自由に衣裳を形つくる権限が与えられています。素材は国内での仕入れのほか、韓国市場に買い付けに行きます。韓国には日本にはない色合いや風合いの生地がたくさんあり、デザイナーたちも選ぶのが楽しいと言います。また、「舞台衣裳をデザインする機会はなかなかないので、



赤いラインが鮮やかなペンション風の建物、森のオフィス。ここで美と躍動感を兼ね備えた衣裳が生み出されていく。

21 Unique Companies
in Sagami-hara
and Tama
FILE 04
【株式会社 アトリエヨシノ】

それを自由にやらせてもらえるのが楽しい」「自分がデザインしたものを舞台上で見ることができたとき、お客様から反応があったときにやりがいを感じる」と社員は言います。

また、社長も一児の母親。子育てを経験して、仕事と生活の両立を実践してきたことから、女性社員のライフステージにも理解があり、出産後も復帰しやすく、子育て中も働きやすい環境を整えています。

しなやかに指揮をとる 女性経営者という生き方

「毎日楽しいことがある」。女性経営者であり、デザイナーである吉野社長は語ります。ものづくりが好きで、衣裳を見て「かわいいでしょう！かわいいでしょう！」と、エネルギーにとことん仕事を楽しむ姿が印象的でした。こうした社長の仕事を楽しむ姿勢が多く、華やかで楽しい衣裳を生み出し、踊る人、見る人に感動を与えるのです。

アトリエヨシノがこれまで「いつもお客様の困っている事柄には真摯に対応してきた」ことが創業20年で100人規模に成長してきたこと

クバレエ衣裳は1着ずつつくっていましたが、百貨店のような大量生産方式を導入しました。業界では通常だった「工房的作業」を「美と躍動感を生み出す工場」にしたのです。その結果、多くのバレリーナを抱える大手のバレエ教室に一括で衣裳をレンタルすることができるようになり、あらゆる身長・年齢のバレリーナたちの悩みを解消し、気軽に衣裳を選べる環境をつくり出しました。

バレエの発表会を ファッションショーにする

創業当時、バレエの衣裳は一部を除き、無地のドレスにキラキラしたスパンコールをつけた程度のものでした。吉野社長はアパレル業界でファッションショーも手掛けたことがあるため物足りなさを感じていま



あらゆる年齢・サイズのバレリーナの悩みを解消してきたアトリエヨシノ。豊富なサイズと多様なデザインから気軽に選べるという環境をつくり出し、バレエ教室から圧倒的な支持を得ている。



21 Unique Companies in Sagamihara and Tama FILE 04 【株式会社 アトリエヨシノ】



した。成長過程にあるバレリーナたちの踊りにはまだ完成された美しさはなく、加えてさらに衣裳が地味では、観客は飽きてしまいます。そこで、吉野社長は自身の経験を生かし、クラシック系、ロマンチック系、民族系など、系統の異なる衣裳に工夫を加えることで、バレエの舞台をファッションショーにしていきました。ストライプや水玉のプリント柄、カラフルな生地、色とりどりのリボン、レースやフリンジたちが舞台をより華やかに演出したのでした。これらのことが評判になって、バレエ教室の間でアトリエヨシノの知名度は上がっていききました。

子供たちのキラキラを創造したい「眠れる森の美女」「白鳥の湖」などの大人の出し物に子どもが出ざる

を得ないのがバレエ業界の常識でした。吉野社長はこの子どもたちの状況を見て、疑問に思ったそうです。

そこで、「子どもたちが主役になって活躍できる全幕衣裳をつくりたい！」という思いから、「不思議の国のアリス」「ピノッキオ」などの子どもが中心となる幕物の衣裳を手掛けるようになりました。子ども用ドレスはカラフルで、スカートの表面にはキャンディ、コーヒーカーツプなどが散りばめられていて、まるでおもちゃ箱をひっくり返したような賑やかで楽しいデザインです。これまで、大人の舞台に出演して、大人びた衣裳を着ていた子どもたちが、子ども用の楽しく可愛らしい衣裳を身につけて踊っていると、彼女たちの目がキラキラしてきて、違ったものになっていったそうです。

につながっていると云えます。

バレリーナたちの サイズ不足の悩みを解消

アトリエヨシノ創業時のバレエ業界では、衣裳は母親の手づくりが多かったと言います。当時、他にもレンタル衣裳はありましたが、特にバレリーナたちが困っていたのがサイズでした。他店ではサイズ展開が限られていて、サイズが合わない衣裳を着ると踊りにくいことはもとより、役のイメージが的確に表現できないという問題がありました。そこで、アトリエヨシノでは、1つのデザインに対して1号〜10号まで10種類のサイズをそろえ、どんな身長・年齢の人にも提供できるよう準備しました。同じ役でも小さなサイズは子どもたちが着用し、大きなサイズは大人が着用します。1号〜3号は可愛らしく、4〜6号はお姉さんっぽく、7〜10号は色っぽく、優雅な雰囲気になるようにバランスを考えて制作しなければなりません。生地の分量、丈の長さ、動いたときのシルエツト、色の配分などを緻密にデザインしバランスを整えていきました。また、それまではクラシッ

「今後も子どもが活躍でき、楽しめる全幕衣裳をつくり続けたい」と吉野社長は語ります。

女性にたくさん「喜びと夢」を提供してきた吉野社長。バレリーナの衣裳を着るワクワク感、観る者にとつての感動、女性にとつてやりがいを持てる職場環境。多くの女性が巻き込み、バレエ衣裳を通じて女性が好きな「美」を提供し続けることで、前へ前へと進んできたのでした。そして、「毎日楽しいことがある」とエネルギーに働くその源には、吉野社長自身の「大きな喜びと夢」があるように感じました。

吉野社長の「大きな喜びと夢」。それが「アトリエヨシノの衣裳にはオーラがある」とバレエ業界の人々を魅了し、支持される「ヨシノオーラ」の秘密なのかもしれません。